



THE CIVIC OBSERVER

発行責任者：元 佐野市議会議員 鈴木靖宏
栃木県佐野市植下町 1234 TEL：0283-22-4115

2026年創刊号

Vol.01

発行日：2026年10月1日

討議資料

特集 どうなった??

不起訴＝無罪 ではない。

佐野市百条委員会『陳謝』だけで幕引きしてよいのか？

3つの論点

- 不起訴と無罪は同じ？
- 公募要件の変更は一体、誰が決めたの？
- 幕引きを決めるのは誰？

幕引きを決めるのは
市長ではなく、
主権者である
私たち
市民です。



POINT
1

不起訴（嫌疑不十分）は潔白の証明ではない

「嫌疑不十分」とは、疑いが完全に晴れたという意味ではなく、有罪立証に足る客観的証拠が十分でなかった、ということです。つまり、嫌疑そのものが消えたわけではありません。

POINT
2

市長の説明を信じるほど、矛盾は深まる

市長が「指示していない。」と言い張っても、担当副市長は「市長から話があれば自ら変更を検討する動機や理由はない。」と証言し、所管課職員も「市長から、PFI実績のある事業者が応募できるよう、募集資格の見直しを指示された。」と証言しています。※指定管理者制度の在り方調査特別委員会 最終報告書 より要約

POINT
3

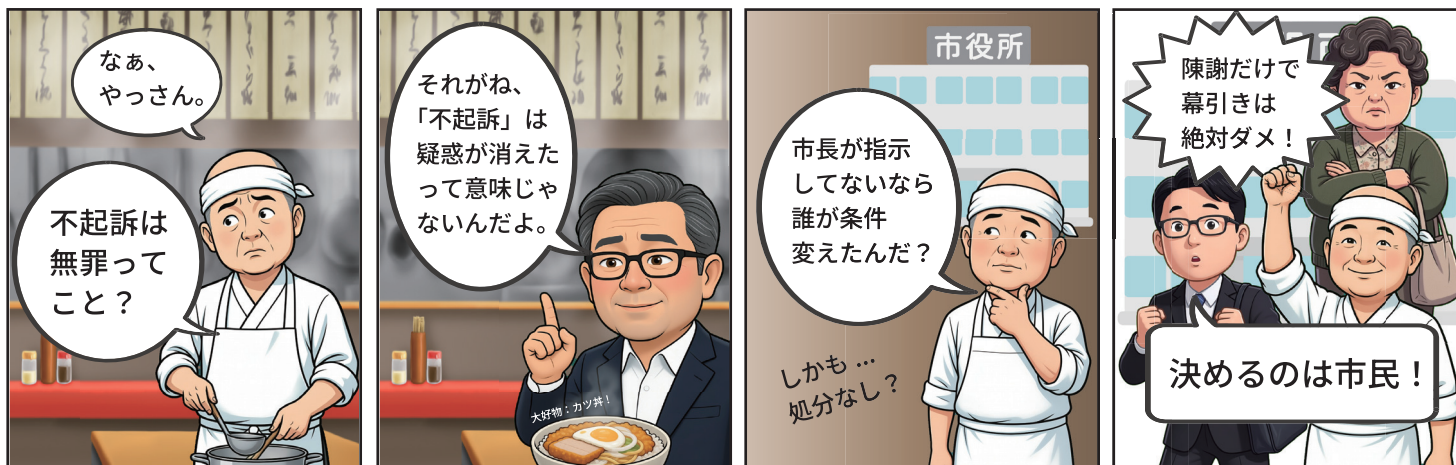
『迷惑をかけた』だけの陳謝では終われない

定例会見での「陳謝」は、お騒がせしたことへの謝罪にとどまり、偽証の疑いや便宜供与の疑惑そのものを認めたものではありません。疑惑の動機と経緯が解明されない限り、市政への信頼回復はできません。

NEXT 職員の勇気を無駄にするな—なぜ、いま「検察審査会」が必要なのか？

9月議会の一般質問で浮き彫りになったのは、金子市長や担当部長による曖昧な答弁と、真相究明から逃げ回る市当局の姿勢でした。勇気ある市職員を守り、市政への信頼を取り戻すため、佐野市議会が、「検察審査会」という法的手続きに踏み込んで真相を白日のもとに晒すことは、市民に対する当然の責務です。

4コマでわかる！



公式 WEB サイトはこちら



気になる街の話題を発信中！

やっさん
コラム

季節が巡っても、事実と論点を見つめ続ける。

猛暑が去り、実りの秋を迎えました。しかし佐野市政においては、市民が納得できる「真実の実り」は、いまだ何一つ得られていません。どれだけ時間が過ぎようと、うやむやな幕引きを許すわけにはいきません。



いつも
ありがとう
ございます！

今、佐野市が抱える4つの課題。

産業・防災・透明性・街の衰退 — 市民の生活に直結する4つの論点を整理する

「佐野の“稼ぐ力”活かしていますか？」

01 産業政策の停滞

佐野には、高速道路網や物流拠点など、大きな強みがあります。その立地の良さを、税収や雇用につなげる戦略が、今こそ問われています。

- 産業拠点づくりは進んでいるか
- 雇用と税収を生む戦略はあるか
- 近隣自治体に後れを取っていないか



「“備えている”だけで命は守れますか？」

02 防災・危機管理

防災で大切なのは、設備の数だけではありません。災害時に、誰が判断し、誰が動き、市民を守るのかが問われます。

- 防災設備は実際に機能するか
- 緊急時の指揮体制は明確か
- 命を守る備えは十分か



「その選定、市民に説明できますか？」

03 行政の透明性

公共事業には、市民の大切な税金が使われています。だからこそ、要件設定や選定の過程を、市民に説明できることが重要です。

- 要件設定の理由は明確か
- 選定過程は公正と言えるか
- 情報公開は十分に行われているか

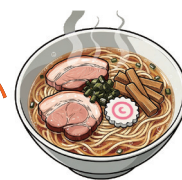


「佐野の一等地、いつ動く？」

04 中心市街地の衰退

街の中心にある貴重な資産を、いつまで眠らせておくのでしょうか。佐野ラーメンをはじめとする地域の魅力も、もっと活かせるはずです。

- 中心市街地の活用方針はあるか
- 地域資産を十分に活かしているか
- にぎわいを生む具体策はあるか



佐野市への4つの問い

01



佐野市の立地を、雇用と税収に変えられているか？

02



災害が起きた時、本当に機能する体制なのか？

03



税金の使い道を、市民に堂々と説明できるか？

04



佐野市の資産を、いつ未来へ動かすのか？

総括

「綺麗事では飯は食えない。佐野に本気の執念を。」

政治は、一部の人たちの顔色をうかがうためのものではありません。市民一人ひとりの『生活』そのものです。お行儀の良い綺麗事の裏で、街の活力が削られていくのをこれ以上黙って見過ごすわけにはいきません。佐野の未来を、もう一度私たちの手に取り戻しましょう。

